

入選

今の自分を認めて

長野県 緑ヶ丘中学校

1年 小嶋結架

私は、積極的に人と接することが苦手だ。知らない人とはうまく話せないし、自分から話しかけることもあまりしない。

「小さな親切」。私のような性格の人間には、難しいテーマかもしれないと思った。なぜなら私の思う親切とは、行動力がある人ができる行いだからだ。思い返してみても、先生が手伝いを必要としていたときも、授業で教科書を間違えている友達に気づいたときも、声をかけることはできなかった。

私の過去の親切といえば、せいぜい目の前の落とし物を拾って渡したくらいだ。それに比べ友達には、私のことをいつも気にかけて、助けてくれるのはもちろん、知らない人にでも困っていたら声をかけることができる。私もできれば人助けをしたい気持ちはあるが、簡単にできれば苦労はしない。自分にできる親切とはなにか。何日も考える日が続いた。

そんな締め切りも迫った夏休み、私は友達とプールへ遊びに行くことになった。日差しが強く、すぐにでも水に入りたかったが、プールサイドは高温。素足で歩くことができないため、サンダルを履こうとしたそのとき、誰かに突然手首つかまれた。

驚いて手の方を見てみると、保育園位の男の子が私の手をしっかりとにぎっていた。私は反射的に、その手を振りほどきそうになった。しかし、男の子をよく見てみると、一生懸命にサンダルを履いている最中だった。どうやらバランスをとるために、私の手をにぎっていたらしい。

人見知りの私は、とても動揺した。今にでも手を放したかったが、私は手をつかまれたままじっと待った。もし今この手を離したら、男の子がバランスを崩して、こけてしまうかもしれないと思ったからだ。

履けたと思った直後、男の子が満面の笑みで私を見てきた。しかし、お母さんと間違えていたのか、びっくりした様子で慌てて手を振りほどき、走り去ってしまった。それでも、私にはその子の気持ちがよく分かったし、不思議にとっても気分がよかった。

私は思った。今回のできごとでも小さな親切なのではないだろうか、と。私は、友達のように積極的に人助けをすることはできない。しかし、私にできる小さな親切はきっとたくさんある。

よく考えてみれば、落とし物を拾うことだって立派な小さな親切だ。行動力のある友達と比べる必要はないのではないか。自分に無理をせず、思いやりの気持ちをもって接すれば、自然と周りを助け、受け入れ、それが親切と呼ばれる行動に繋がる。

まずは自分を信じて、できることをしてみよう。できないことよりできること、今の自分を認めて。